

## 第42回品質保証検討会 議事録

1. 日時：平成27年3月10日（火）13時30分～17時40分

2. 場所：（一社）電気倶楽部 10階A会議室

3. 出席者：（敬称略，順不同）

- 出席委員：鈴木主査(中部電力)，大谷(三菱電機)，芝原(日立GE)，辰巳(北陸電力)，原田(中国電力)，村上(JANSI)，齋藤(西日本技術開発)，筒井(九州電力)，中村(日本原燃)，渡邊(JANSI)，鳥海(GNF)，近藤(東京電力)，梶谷(日本原電)，菊池(四国電力)，小又(三菱原子燃料)，須河内(電源開発)，島津(北海道電力)，谷(東芝)，牧(リサイクル燃料貯蔵)，新田(富士電機) 計20名
- 代理委員：水嶋(東北電力・後藤代理)，松山(三菱重工・徳久代理)，岩田(JAEA・山内代理) 計3名
- 欠席委員：秋吉(関西電力)，植木(原子燃料工業)，岡部(IHI) 計3名
- 常時参加者：上田(三菱重工業)，日隈(東芝)，田村(東京電力)，渡邊(原子力規制庁) 計4名
- 事務局：富澤(日本電気協会)，美馬(日本電気協会) 計2名

### 4. 配付資料

- 資料 42-0-1 品質保証検討会委員名簿
- 資料 42-0-2 第41回品質保証検討会議事録(案)
- 資料 42-1-1 JSME 誤記対応のうち JEAC4111-2013 1～3章確認表
- 資料 42-1-2 機械学会誤記対応(水平展開)確認結果 各章グループ 4～6章
- 資料 42-1-3 機械学会誤記対応(水平展開)確認結果 各章グループ 7章
- 資料 42-1-4 JSME 誤記対応のうち JEAC4111-2009 7章確認表
- 資料 42-1-5 JSME 誤記対応のうち JEAC4111-2013 7章確認表
- 資料 42-1-6 JSME 誤記対応のうち JEAC4111-2013 8章確認表
- 資料 42-1-7 JSME 誤記対応のうち JEAC4111-2013 9章確認表
- 資料 42-2 平成26年度 JEAC4111 講習会の実施結果について(報告)，平成27年度 JEAC4111 講習会等 計画(案)
- 資料 42-3-1 平成27年度 各分野の規格策定活動(案)
- 資料 42-3-2 品質保証分科会 平成27年度活動計画(案)
- 資料 42-4-1 民間規格の技術評価の実施に係る計画の見直しについて
- 資料 42-4-2 日本機械学会「維持規格」及び日本電気協会「原子炉構造材の監視試験方法」に係る技術評価の実施について(案)
- 資料 42-4-3 誤記チェックの対象となる規程・指針リスト(38規格)
- 資料 42-4-4 日本機械学会 設計・建設規格の誤りに関する対応について
- 資料 42-4-5 日本機械学会「発電用原子力設備規格 設計・建設規格」〈第1編軽水炉規格〉2012年版の正誤表の発行を踏まえた対応について
- 資料 42-4-6 原子力規制委員会が是認し活用している民間規格の誤りの訂正に係る報告について
- 資料 42-4-7 添付-6 日本電気協会 原子力規格委員会 技術評価対応要領(案)
- 資料 42-4-8 JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」(2013年追補版)の技術評価対応状況について(案)
- 資料 42-4-9 技術評価対応要領の策定について
- 資料 42-5 「JIS Q 9001:2015 検討タスク」の設置について(案)

参考資料-1 JEAC4111/JEAG4121 改定検討WG 体制表

参考資料-2 JEAC 及び JEAG の誤記確認について

参考資料-3 第 53 回原子力規格委員会議事録（案）

## 5. 議事

### (1) 代理出席委員の承認，定足数の確認，委員等の交代

鈴木主査により代理出席委員3名が承認された。

なお，岩田氏（JAEA）が今後も山内委員（JAEA）の代理として継続して出席する場合は，規約に則って分科会の承認を得る必要があるため，山内委員の意向を確認することとした。

事務局より，代理を含め委員26名中23名が出席であり，議案決議に必要な定足数（委員の3分の2以上=18名以上が出席）を満たしていることが報告された。

事務局より，委員2名の交代（徳久委員→松山氏，後藤委員→水嶋氏）が申請されていること，これまでオブザーバーとして参加していた上田氏（三菱重工業）が今回から常時参加者になること，および主査より，齋藤委員が委員を退任し常時参加者になることが紹介された。3月16日に開催される品質保証分科会で上記委員の選任について承認を求めると及び新たな常時参加者の承認について，出席委員（代理を含む）全員の賛成により決議された。

### (2) 前回議事録の確認

資料 42-0-2 前回議事録(案)を事務局から説明。前回検討会后，事務局からの議事録案の事前送付がなく，本検討会の場での確認となったが，誤記等が多数あったため，承認を保留し，後日，本日のコメントを反映のうえ，再度，各委員によるメール審議により決議することとなった。

主査より，本来議事録には内容を確認し次のアクションにつなげる目的があり，会議後できる限り速やかに事務局にて案を作成し，その内容を委員と発言者でチェックするよう指示があった。

### (3) 「原子力安全のためのマネジメントシステム規程（JEAC4111-2013）の適用指針（JEAG4121-201X）」改定案の公衆審査対応について

事務局：これまでのところ意見はいただいていない。パブコメ期日の3月15日までに意見がない場合は成案になり，発刊準備に入る。発刊までの編集上の修正については，分科会の責任で行う。また，3月15日に審査終了のため，改定年は2015年となる。

- ・発刊に向けて，4月8日に電気協会会議室において読み合わせを行う。エディトリアルな修正しか許されないが可能な限り良いものにしたい。
- ・4月8日は改定検討WGとして，公衆審査版によりチェックする。委員名簿や目次を含めて，印刷直前のスタイルで再度我々でチェックをした方がいい。JEAC4111-2013で目次にミスがあった事例等を教訓として万全を期したい。

→事務局：印刷ソフトへの変換時に文字化けなどが発生することから，委員の目で改めて見ていただきたい。

### (4) 日本機械学会 設計・建設規格の誤りに関する対応について

資料 42-4-2, 3, 4, 5, 6 および参考資料-2 に基づき，日本電気協会としては38規格を対象に速やかにチェックを実施すること，誤記が確認された場合は，資料 42-4-4 の対応方法（①影響評価を実施し公表，②正誤表を発行してユーザーへメール配信，③次回改

定で修正)に基づき対応を行なう等、規格委員会にて決定された方針について渡邊委員から説明があった。

- ・ JEAC4111は規格委員会による誤記確認対象分類において「優先度高」とはされていないが、速やかにJEAC4111-2009及び2013の確認を行い、6月の分科会・規格委員会へ報告することとする。

#### ●1～3章

資料 42-1-1 に基づき、1～3章については、以下のとおり次回改定の際に直せばよいレベルであり、後に出てきた対応案③になることを説明。

- ・ 目次に「附属書 根本原因分析に関する要求事項」が抜けている
  - ・ 0.1.2 項の「原子力安全の達成のための活動に加えて『安全文化醸成のための活動』が業務の一つとして含まれる」との記載について、技術基準との整合性が気になる。
  - ・ 技術基準の定義との比較では、品質管理監督システムの定義の解釈にある10個の例示と、JEAC4111-2013の解説及び9.2項との関係が問題になる可能性があるが、規格全体としてはJEAC4111の解説4.1-1を介して9章が参照できるので、技術基準と整合はとれていると判断
  - ・ 3月16日の分科会には③はいくつかあったがそれ以外の誤記はない旨を報告し、6月の分科会には直した形で正式に出すこととする。
  - ・ まとめとしては、目次が抜けている件は③で、安全文化醸成のための活動の例示の件は「該当しない(バー)」になるのではないかと判断
- 採承。
- ・ 「もし技術評価でコメントが出た場合には問題になる可能性がある。」は客観的な表現に変える。例示「10ヶ」は誤記なので「11項目」に修正する。
- 採承。

#### ●4～6章

資料42-1-2に基づき説明。JEAC4111-2009及び2013の記載内容に誤記は無く、結果、問題はなかった。

- ・ DS456の要求事項に対比するJEAC4111-2013の要求事項を明確に判断できない箇所があった。  
→ JEAC4111-2013原案策定作業会にて分類を行った資料を参照のこと。  
→ 採承
- ・ DS456は、現在step10まで出されているが、記載内容が年末に変わった模様。IAEAに変更内容を照会している状況だが、詳細は不明。
- ・ DS456は成案ではないため、あくまで参考として参照した旨を示すこととする。

#### ●7章

資料42-1-3, 4, 5に基づき説明。2009年版, 2013年版とも問題はない。

- ・ 2009年版の気付き事項として、7.5.4の組織外の所有物では、当時議論があつて「必要に応じて」という表現が入ったと認識。
  - ・ 2013年版の気付き事項として、7.6 監視測定のための設備→測定機器
  - ・ 監視は用途にすぎないので測定機器でよいとなった。
  - ・ 7.5.5はあくまで例示であつてJEAC4111が厳しい訳ではない。
- 採承。表現を修正する。

#### ●8章

資料42-1-6に基づき説明。JEAC4111-2009及び2013とも誤記に該当するものが無く、問

題はなかった。

## ●9章

資料42-1-7に基づき説明。9章の安全文化については、推奨事項であり要求事項ではないので参考までに確認したという位置づけであるが、2009年版には無い章なので2013年版のみの確認をした。語尾表現の違いはあるが意図的に表現を変えているもので誤記ではないと判断できるなど、問題となるものはない。③にも該当しない。

### (5) 民間規格の技術評価について

資料42-4-1, 2, 7, 8, 9に基づき説明。

- ・ エンドースされた規格にJEAC4111-2009年版も入っている。資料42-4-7は基本方針策定タスクWGにかけられた「技術評価対応要領（案）」であり、分科会で配付して意見をもらう予定。今後のエンドースにあたっての検討会の作業に関わる話なので、レビューして意見をいただきたい。
- ・ 同様の対応要領を機械学会でも策定しており、3月の規格委員会で説明し6月に決定をいただく予定。

### (6) 品証分科会活動計画(案)、27年度各分野の規格策定活動(案)

資料42-3-1, 2に基づき説明。

- ・ 資料42-3-1の5.3.4-5項「使用のされ方を注視して」の表現はこれで良いか。  
→「また事業者における運用状況を注視して」に修正。
- ・ コースⅡ東京会場の受講実績者数は100名（101名申し込み、1名欠席）で間違いな  
いか。  
→事務局：再度確認し、連絡する。その結果を踏まえ、資料42-2を修正する。

### (7) 講習会

資料42-2に基づき説明。

- ・ 時期は、業務スケジュールや講師の都合等を考慮し、年度末も外して計画。
- ・ 受講者数実績および顧客満足度を考慮し、コースⅡについて、27年度は東京で1回実施し大阪では実施しない案、および東京で1回、大阪で1回実施する2案を作成。出席委員全員の賛成で前者に決定し、分科会資料に反映させることになった。
- ・ コースⅡについては、9章が加わった分、講習時間を増やすことも検討してはどうか。コースⅢについては、6組でなく5組で計画し人数が増えたら組数を増やすのも一案。

### (8) 改定検討WGの体制

参考資料-1の体制表に基づき説明。

- ・ 8章サブチーム内の互選により菊池委員(四国)をリーダーとした旨の報告を受けた。
- ・ 9章サブチームは兼務者が多く、今後の普及促進活動を見据えた場合、専任を増員する必要がある。  
→4-6章サブチームのリーダーを辰巳委員に変更し、筒井委員を9章サブチーム専任とし、筒井委員は4-6章サブチームは兼務として引続き参加することとする。
- ・ 主たる所属一つ以外に兼務を認めるが、兼務メンバーも他のメンバー同様に活動するように主査から依頼があった。
- ・ 常時参加者の田村氏がコースⅢのサブリーダーになることについて、本人の了解を得た。

### (9) ISO検討タスクの設置

資料42-5に基づき説明。

- ・副主査を谷委員にお願いするとともに、齋藤氏、秋吉委員をメンバーに加え修正する。大枠のスケジュールとして、資料では1年後を目途にしてあるが、前倒しをした方がよいとの意見もある。
  - ・平成28年3月に中間報告するスケジュールになるが、受注する側の考えも聞く必要がある。3年間の移行期間があるため、審査機関がどんな審査をするかが見えてからでも良いのではないか。早める必然性はあまりないのではないか。
  - ・スケジュールは、活動を進めていく中で変わり得るという前提で良いのではないか。
  - ・規約上のタスクではないので、名称は検討WGの方がよいのではないか。
- 全委員の挙手により、名称を検討WGに変更のうえ設置することが承認された。
- ・ISO 9001:2015のDIS(国際規格原案)はもうあるし、FDIS(最終国際規格案)が今後出るので入手する必要がある。JIS Q 9001の和訳版も同様。

(10) その他

- ・事務局より、参考資料-2を説明。誤記チェックの結果は、当該様式に従って分科会に報告し規格委員会にかけていただけるよう依頼。
  - ・事務局より、サーバーの導入状況について、昨年導入したものの試験運用時にある会社がパスワードで入れなかったため、原因を調査していることを説明。
- 入れない会社があったとしても、とりあえず運用できるのではないか。委員会活動の継続性を維持するためには、JEACだけでなくスタンダード未満の規格策定に用いた資料等をサーバーに残すとよい。

以上